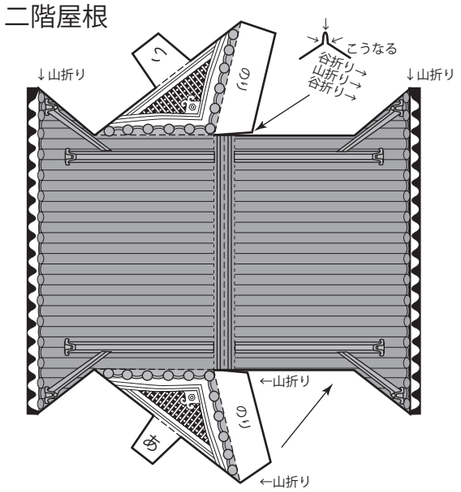
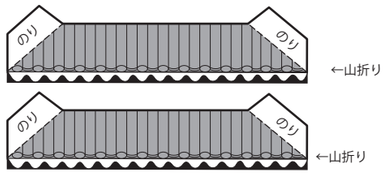
みんなで作ろう！埋文クラフト

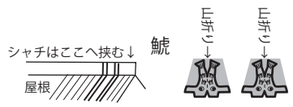
県指定史跡甲府城跡　建物シリーズⅡ　稲荷櫓 1/200

完成写真(全体図)

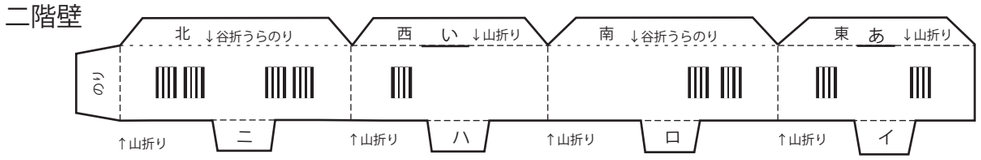
平成１６年に復元された甲府城稲荷櫓を1/200で完全再現。
今号はその2階部分のモデルをのせているぞ。次号掲載の
1階部分と合体させて稲荷櫓を完成させよう！







切る
山折り
谷折り



1階部分は次号掲載。乞うご期待！

所長所感

文化財保護のためのスキル

埋蔵文化財の保護の一環として、これまでたくさんの発掘調査が実施されてきています。発掘調査の現場に立ち、調査と研究を一手に担う専門職員は、埋蔵文化財の「保護主事」とか「調査技師」とか、全国で様々な呼ばれ方をしていますが本県教委では「文化財主事」としております。

文化財主事は、発掘調査を円滑に運営し、様々な過去の情報を細大漏らさず収集し、そうした情報が現代社会に、ないしは未来社会のデザインに有効に活用されるよう努めなければなりません。

文化財主事はそうした課題に応えるためにいくつものスキルが必要です。

「測量」はその１つで、その底流には三角関数があります。いまは外部委託することが基本のようになっていますが、昭和時代を中心にトランシットと関数電卓は必需品でした。測量に限らず、自分の手でできて初めての委託かなといった思いがあります。

編集後記

秋は、埋蔵文化財センターでもイベントが目白押しです。甲府城、銚子塚古墳、埋文シンポジウムなど。イベントをとおして郷土の歴史に親しめるようなプログラムをつくっておりますので、埋蔵文化財センターのイベントで、文化の秋を体感いただければと思います。(池)

埋文やまなし　第48号
発行　山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町 923
☎055-266-3016
印刷　青柳印刷株式会社

山梨県埋蔵文化財センター報

埋文やまなし

第49号
2015.11.01
http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/

最新調査の成果

発見された県庁地下の甲府城

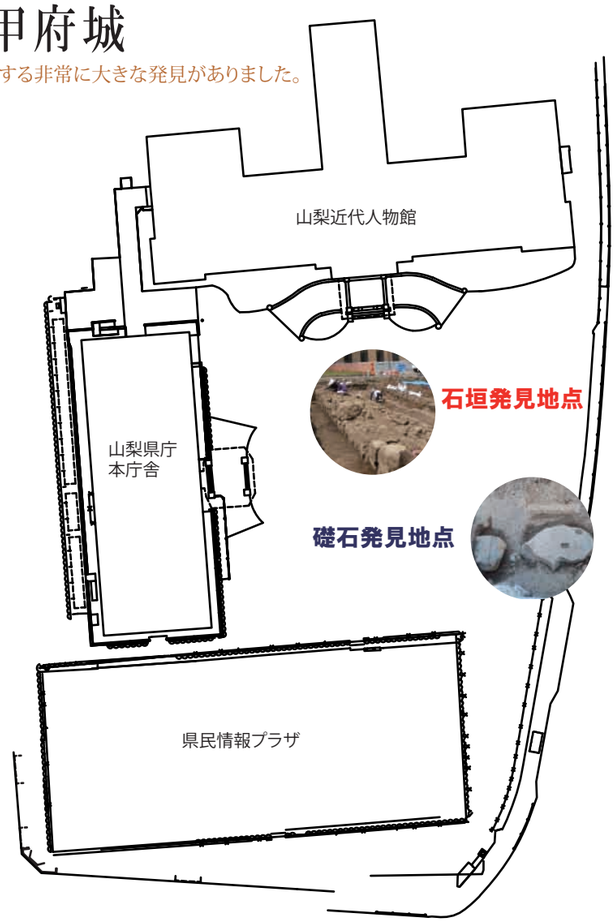
平成27年の６月から9月にかけ、山梨県庁内では甲府城に関する非常に大きな発見がありました。

甲府城楽屋曲輪の石垣

石垣は、調査区域内で南北方向に22ｍ、東西方向に約2m、高さ最大約1mの規模で、今回みつかった石垣は、甲府城楽屋曲輪内の政庁や能舞台があったエリアを区画するものと考えられます。

7月5日楽屋曲輪石垣一般公開

甲府城内においては大規模な水路遺構が石垣の東側に沿ってみつかっています。今回の調査区は地形上、甲府城本丸付近からの雨水が集まりやすい場所にあり、甲府城本丸から流れる大量の雨水が楽屋 曲輪に流れ込まないようにしていたものと考えられます。



追手門礎石

礎石の発見

もう一つの発見は、県庁東門の周辺工事に伴って発見された、２石の礎石です。礎石は、甲府城の正門にあたる追手門を構成する櫓門正面側に配置されていました。

追手門礎石

銃柱を支えた大きな礎石

南北約２ｍ、東西約１ｍとひじょうに大きな石材が使われており、甲府城の正門にふさわしい大きさの礎石であったことがうかがわれます。

北側の礎石上部には門の柱を立てた長方形のホゾ穴と、扉の軸をささえる軸摺穴がありました。

保存

この礎石は、すでに失われた甲府城追手門の価値を考える上で一級の資料であることから、上記の楽屋曲輪の石垣とともに、埋設保存されることになりました。